

超大技「トリプルコーク1440」を決めた平野歩夢選手



時事

北京の空に舞った 史上最高難度のルーティン

兄弟揃ってのオリンピック出場！
平野歩夢選手は念願の金メダルを獲得、海祝選手も9位に

郷土のスーパーヒーロー
輝いた両選手、決勝の舞台

2月11日に行われた北京2022オリンピックスノーボード男子ハーフパイプ決勝。最終滑走者で2番手の得点で迎えた平野歩夢選手の決勝の3本目。1本目から決めていた超大技で公式大会では歩夢選手しか成功していない「トリプルコーク1440（縦3回転、横4回転）」は高さを増し成功。続く難度の高い4つのトリックも完璧に決め、「史上最高難度のルーティン」で見事、念願の金メダルを手繰り寄せました。

この日、1本目のランからトリプルコーク1440を取り入れた高難度のルーティンでしたが、終盤のトリックで惜しくも着地に失敗。2本目のランではトリプルコーク1440を含め、完成度の高いルーティンをミスなく披露しましたが、その段階で暫定2位。続く3本目は2本目と同じ構成で挑み、より高く、より完璧なルーティンで高得点を獲得し、見事逆転で優勝、金メダルを手に入れました。

弟の海祝選手も、1本目から最高到達点が7桁を超える見事な高さのエアを見せ、世界中の人を驚かさずランを見せてくれました。初めてのオリンピック出場で決勝に進出し、全体9位、日本人選手では歩夢選手に次ぐ2番手の



村上市スケートパーク



平野歩夢選手

AFP=時事



村上南小学校



平野海祝選手

EPA=時事



平野歩夢選手

時事



平野海祝選手

AFP=時事



平野歩夢選手

時事

好成績となり、将来性を感じさせる見事な活躍でした。

コロナ禍の暗い話題が多い中 歓喜と笑顔に満ちた一日

村上市スケートパークでは、スケートボードのスクールに通う児童や生徒など、その日の利用者ら60人ほどがモニターを通し声援を送りました。大事な3本目に映像が放送局のサブチャンネル切り替えに合い、映像が中断するトラブルに見舞われるも、映像が復活し高得点が伝えられるとみんな大喜び。中には涙を流す人もおり、市民も優勝の喜びを分かち合いました。決勝を固唾を飲んで見守っていた東海林希胡さん(岩船小学校1年生)は「ライブが途切れたけどトリプルコックを決めたのが分かった。金メダルを獲れたのはすごいし、歩夢君みたいにスノーボードの選手になって金メダルを獲りたい」と喜んで話してくれました。

また、2月9日の予選では、両選手の母校である村上南小学校において、全児童が予選の模様を各教室で観戦。新型コロナウイルス感染症防止のため大きな声を上げず、代わりに『鳴子』を大きく鳴らして応援しました。

4年2組の田村愛咲さんは「高く飛んで、バランスを崩しそうになっても持ち直し、二人ともすごかった」と興奮気味に話してくれました。